

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ハスモンヨトウの発生状況と防除対策（技術情報7号）について（送付）

ハスモンヨトウの現在の発生状況はほぼ平年並ですが、今後の予想気温が平年並か高く、発生が平年より早まる可能性が高くなっています。現在の発生状況及び注意事項を下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考資料としてご活用下さい。

記

1 ハスモンヨトウの発生状況（表1, 2）

1) サトイモにおける虫数調査

8月1日及び3日にダイズほ場近辺のサトイモで調査を行った結果、50株当たり寄生株率は30.3%で、平成14、16年並（平成14年：29.7%、平成16年：34.9%）であった。50株当たり卵塊数は0.9卵塊（平成11～14、16年平均：0.3卵塊）、幼虫数（若齢～老齢までの合計）は237.4頭（同平均：264.4頭）と寄生頭数はほぼ平年並であった。

2) フェロモントラップ誘殺数（図1, 2）

生産環境研究所（合志町）のフェロモントラップでは、ほぼ平年並に推移し、7月6半旬にピークが見られた。い業研究所（鏡町）では7月3半旬まではほぼ平年並に推移していたが、その後の増加は認められず、平年よりやや少ない。

2. ダイズにおける防除上の注意事項

1) 生産環境研究所（合志町）のフェロモントラップから、7月6半旬をピークとした場合、積算気温による次世代発生は8月5～6半旬と予想される。ただし、気象予報（8月5日福岡管区気象台発表）によると向こう1ヶ月の気温は平年並か高く、発生が早まる可能性が高いため、ほ場での発生状況に十分注意する。なお、サトイモにおける虫数調査では寄生頭数は平年並であったが、今後高温、乾燥条件で推移すると多発することもあるので、早期発見に努め、適切に防除する。

2) 若齢幼虫は集団となって食害し、その後周囲に分散するので、初期の食害発生に注意し、卵塊や白変葉（若齢幼虫による被害葉）を見つけしだい捕殺する。薬剤散布を行う場合は、老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低いため、防除効果の高い若齢幼虫期に行う。

3) 抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤の連用は避ける。

4) 農薬の使用にあたっては、必ず農薬ごとに定められた使用基準を遵守する。

熊本県病害虫防除所ホームページアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto>

表1 平成17年度サトイモ50株でのハスモンヨトウ発生状況調査

調査日	調査場所	寄生 株数	寄生 株率	50株当り卵塊・幼虫数			
				卵塊	若齢	中齢	老齢
8/3	熊本市秋津1	3	6.0	1	75	0	0
8/3	熊本市秋津2	18	36.0	3	364	134	13
8/3	熊本市供合1	31	62.0	0	159	291	0
8/3	熊本市供合2	20	40.0	1	0	39	0
8/3	城南町杉上1	16	32.0	2	95	23	4
8/3	城南町杉上2	18	36.0	0	104	154	7
8/3	富合町新1	13	26.0	1	82	5	9
8/3	富合町新2	36	72.0	4	677	41	116
8/1	玉名市北牟田	13	26.0	0	35	67	2
8/1	鹿本町中富	4	8.0	0	100	95	1
8/1	菊池市森北	3	6.0	0	2	163	0
8/1	大津町陣内	1	2.0	1	0	0	0
8/1	西合志町黒松	2	4.0	1	19	0	0
8/3	嘉島町六嘉1	25	50.0	0	190	58	22
8/3	嘉島町六嘉2	24	48.0	0	282	131	2
平均値		15.1	30.3	0.9	145.6	80.1	11.7

発生ほ場率は100%

表2 平成11～14,16年度の平均値(サトイモ50株8月調査)

調査年	調査地点数	寄生 株数	寄生 株率	50株当り卵塊・幼虫数			
				卵塊	若齢	中齢	老齢
H16	16	17.4	34.9	2.2	107.6	211.5	46.1
H14	15	14.9	29.7	0.6	205.5	143.0	21.4
H13	17	7.6	15.3	0.4	134.5	64.9	1.4
H12	9	11.7	23.3	0.4	249.2	64.0	1.2
H11	9	4.9	9.8	0.0	80.1	92.0	0.3
平均値		9.8	19.5	0.3	167.3	91.0	6.1

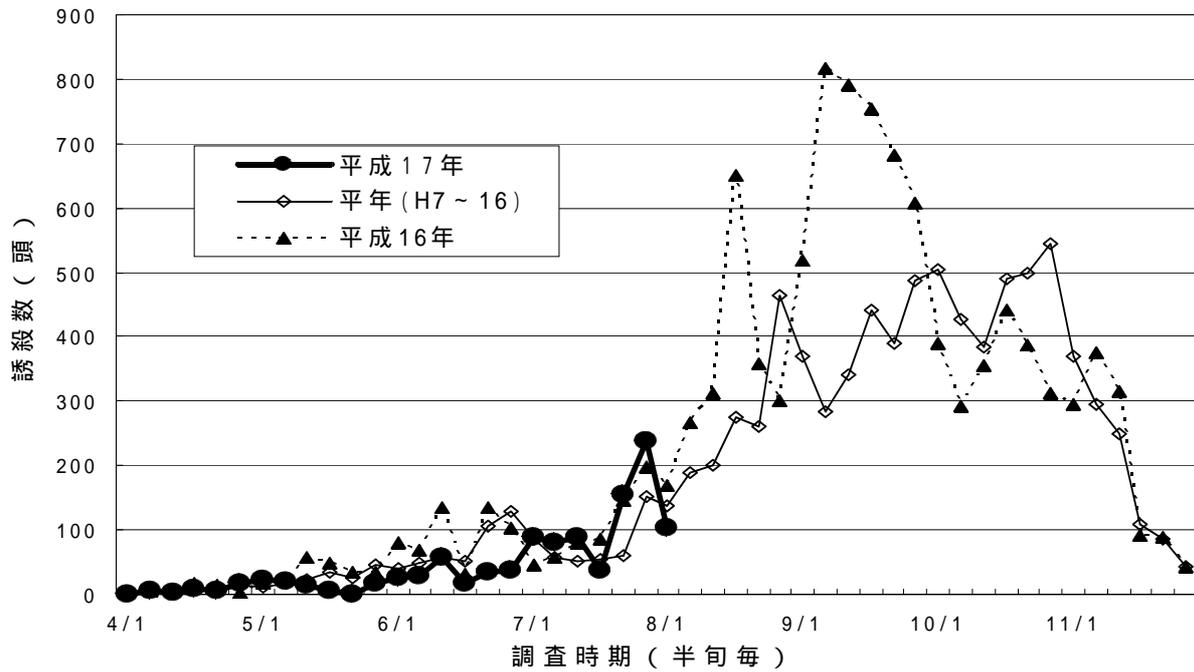


図1 ハスモンヨトウ誘殺状況(フェロモントラップ):合志町

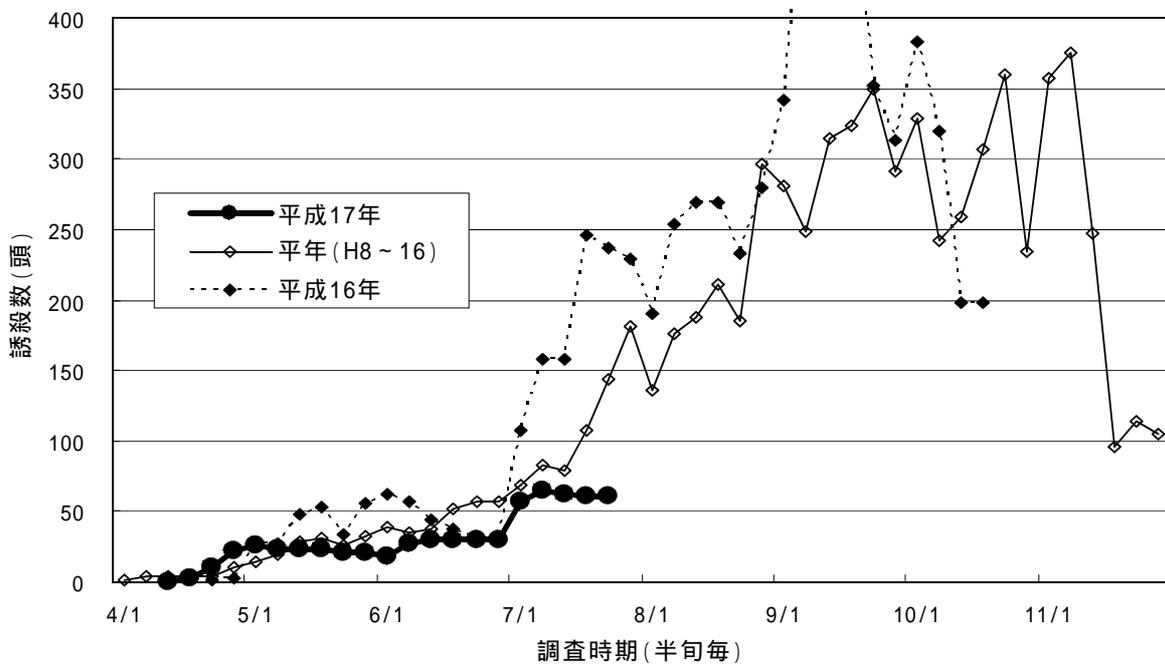


図2 ハスモンヨトウ誘殺状況(フェロモントラップ):鏡町